

# ブロードバンドアクセス市場に関する調査結果 2009

—固定系は「地デジ」が FTTH を下支え・ワイヤレス系は「通信モジュール」型サービスに注目—

## 【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて国内ブロードバンド市場の調査を実施した。

1. 調査期間：2009年7月～10月
2. 調査対象：主要通信キャリア・ISP事業者等
3. 調査方法：当社専門研究員による直接面談、電話・e-mailによるヒアリング、ならびに文献調査併用

### <ブロードバンド市場とは>

本調査におけるブロードバンド市場とは、「固定系ブロードバンド市場」、「ワイヤレス系ブロードバンド市場」の2つに分類した。「固定系ブロードバンド」には「FTTH」、「DSL」、「CATV アクセス」を含み、「ワイヤレス系ブロードバンド」には、3G・3.5G/WiMAX/LTE/XGP等の規格の「データ通信系アクセス」、及び「公衆無線LAN」などを含む。ただし、「データ通信系アクセス」に携帯IP接続サービスは含まない。

## 【調査結果サマリー】

### ◆ 2009年度の「固定系ブロードバンドサービス」契約数は、3,194万（前年度比105%）の見込み、年間純増ペースは、ほぼ前年並み

2009年度の主要サービス種別毎の契約数は、FTTH約1,776万（前年度比118%）、DSL約987万（前年度比88%）、CATVアクセス約432万（前年度比105%）と推計する。

FTTHの純増ペースは鈍化傾向だが、地上デジタル放送（IP放送）や、セキュリティサービスなどのセット率が順調に伸びており、ARPU（顧客単価）は上昇傾向にある。

「世帯」向けサービスとしての「固定系ブロードバンド」は普及が一巡しつつあり、市場の成熟基調が続く。

### ◆ 2009年度の「ワイヤレス系ブロードバンドサービス」契約数は、1,663万（前年度比125%）の見込み、データ通信系が著しい伸び

2009年度の主要サービス種別毎の契約数は、データ通信系（通信モジュール含）約867万（前年度比148%）、公衆無線LAN約796万（前年度比107%）と推計した。

データ通信系サービスは順調に成長している。その背景には、UMPC（Ultra Mobile PC）・ノートPC向けの「データ通信端末（カード・USB型等）」の堅調な伸び、「スマートフォン」の利用増、「MVNO（Mobile Virtual Network Operator）」のサービス増などがある。

1人で複数キャリアの契約をするケースも増加傾向にある。

また、「個人」向けサービスとしての「ワイヤレス系ブロードバンド」は、今後も大きな潜在需要があるとみる。

### ◆ 今後の成長分野はワイヤレス、特に「通信モジュール」型サービスが貢献

2014年度の主要サービス種別毎の契約数は、固定系はFTTH約2,816万、DSL約536万、CATVアクセス約505万、ワイヤレス系はデータ通信系（通信モジュール含）約2,879万、公衆無線LAN約1,145万と予測する。

固定系は引き続きFTTHが牽引している。ただし2011年のアナログ放送停波を期に、契約数の伸びはさらに鈍化するとみる。

ワイヤレス系は、M2M（Machine to Machine）、テレマティクス等の法人・業務系を中心とした「通信モジュール」型サービスの普及が、市場規模拡大に貢献すると考える。

### ◆ 資料体裁

資料名：「2009年版ブロードバンド白書」  
 発刊日：2009年10月30日  
 体裁：A4判 273頁  
 定価：157,500円（本体価格150,000円 消費税等7,500円）

### ◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝

設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先（当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>）

㈱矢野経済研究所 営業本部 広報・PRグループ TEL：03-5371-6912 E-mail: [press@yano.co.jp](mailto:press@yano.co.jp)

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。  
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報・PRグループ迄お問合せ下さい。

## 【 調査結果の概要 】

### 1. 市場概況

- ・ 2009年度の「固定系ブロードバンド市場」は、「FTTH」が約1,776万(前年度比118%)、「DSL」は約987万(前年度比88%)、「CATVアクセス」は約432万(前年度比105%)と推計し、「ワイヤレス系ブロードバンド市場」は、「データ通信系(通信モジュール含)」が約867万(前年度比148%)、「公衆無線LAN」は約796万(前年度比107%)と推計した。
- ・ ブロードバンド市場は、2007～2008年頃までは、「固定系ブロードバンド」が主要市場であったが、2008年～2009年にかけて、メガクラスの「データ通信系アクセス」が続々登場し、「ワイヤレス系ブロードバンド」の市場規模が急成長している。  
ブロードバンドサービスは、「世帯から個人へ」とその対象範囲を拡大してきている。

#### 1.1 「固定系ブロードバンド市場」動向

「固定系ブロードバンド市場」では、FTTHの契約数が伸びているが、年間純増数は鈍化傾向にある。要因としては、ADSLなどその他ブロードバンドサービスからの切替え数が減少傾向にある、またFTTH→FTTHの事業者乗換えが増加していることなどが挙げられる。「固定系ブロードバンド市場」全体の成長率は横ばい基調にあり、既に成熟市場である。

ただし、FTTHは契約数の純増ペースが鈍化する一方で、映像サービスや、セキュリティサービスとのセットサービスの加入率が伸びている。特に映像サービスでは、「地上デジタル放送+多チャンネル」のIP放送サービスの加入者の伸びが著しく、ARPU(顧客単価)は上昇傾向にある。

「固定系ブロードバンド市場」では、今後は「市場拡大」より「市場深堀」の動きが活発化しそうである。例えば、個人向けではアプリケーションのセット販売やサポート・セキュリティサービスなど「保険型サービス」の販売、法人向けでは、クラウド型のソリューションサービスなどが注目されている。キャリアによる長期利用者の囲い込みの動きが更に目立ってくるであろう。

#### 1.2 「ワイヤレス系ブロードバンド市場」動向

「ワイヤレス系ブロードバンド市場」では、現状は、UMPC・ノートPC向けの「データ通信端末」が主であるが、昨今では「スマートフォン」の加入者が伸びている。また、ISPや端末メーカーなどによるMVNOの事例も増加している。「データ通信系アクセス」の契約数は、2009年度で867万と前年度比148%の見込みであり、市場は急成長している。「公衆無線LAN」サービスは2009年度末で796万と前年度比107%の見込みである。成長率は横ばいに見えるが、これはキャリアとの契約が必要ない「無料」の「公衆無線LAN」サービスの利用者数が含まれていないことによるものである。携帯型ゲーム機を代表とするWi-Fi対応端末は上市数が着実に増加しており、「公衆無線LAN」サービスの利用シーンも増えている。そのため、実質的な「公衆無線LAN」市場規模は、より大きなものになっていると考える。

## 2. 注目すべき動向

今後の市場動向として注目されるのは、「ワイヤレス系ブロードバンド市場」における新サービスと市場の拡大である。2009年にサービスが開始された WiMAX、2010年末に開始が予定されている LTE など、次世代サービスによる市場規模拡大も期待できる。

特に大きな潜在需要があるのは、いわゆる「ノン PC・ノン携帯電話」としての「通信モジュール」型サービスである。例えば、現状では 3G モジュール内蔵のデジタルフォトフレームやデジタルメディアプレイヤーなどがあるが、中長期的には、M2M (Machine to Machine)、テレマティクスといった法人・業務系のユーザーを対象とした市場が成長分野として期待できる。この分野には、通信キャリアだけではなく、MVNO としてベンダやメーカーの参入意向が高く、今後は市場のプレイヤーも更に増える見込みである。

コンシューマ向けでも、通信費をユーザーに負担させないメディア閲覧端末や、複数のモジュールが内蔵されネットワーク状況に応じて自動で適切なアクセス手段を選択できるコグニティブ無線サービスなど、多様なビジネスが出てくるだろう。

## 3. 将来予測

### 3.1 「固定系ブロードバンド市場」予測

「固定系ブロードバンド市場」では、FTTH と地上デジタル放送のセット販売が順調に伸びており、今後も成熟基調にある市場を下支えするであろう。ただし、2011年7月のアナログ放送の停波を期に、2012年度頃からは契約数の伸びは鈍化すると考える。

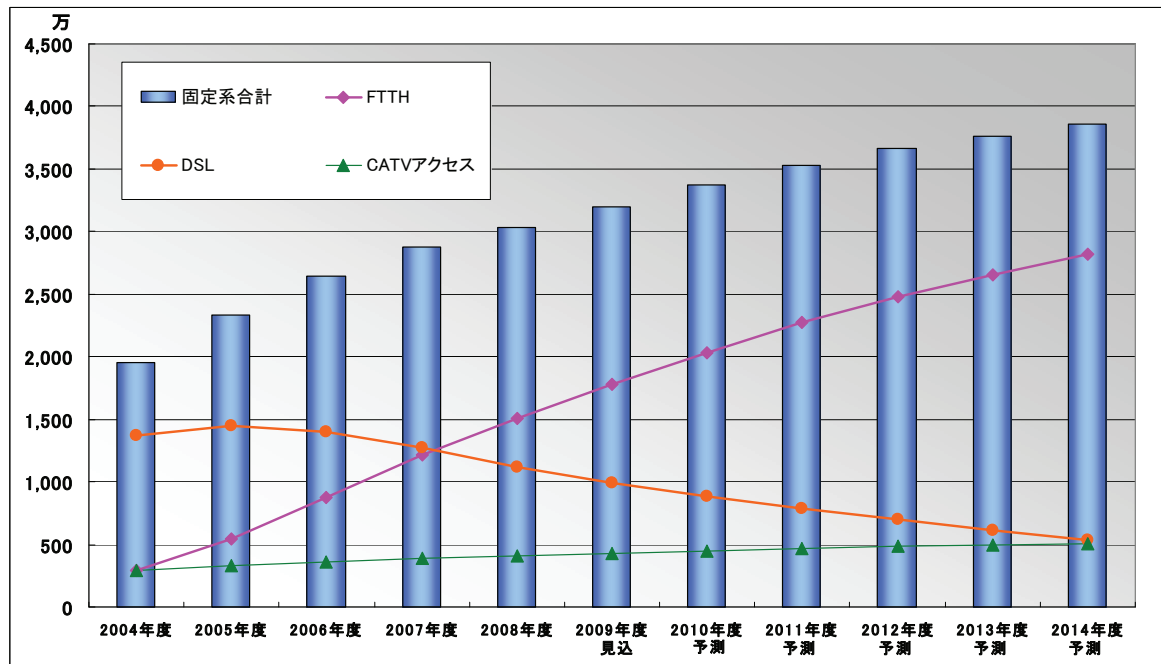
2014年度の「固定系ブロードバンドサービス」の市場規模は約3,856万契約、うちFTTHが約2,816万、DSLは約536万、CATVはアクセス約505万と予測する。

### 3.2 「ワイヤレス系ブロードバンド市場」予測

「ワイヤレス系ブロードバンド市場」では、前述の通り「通信モジュール」型サービスや、参入プレイヤーの増加など市場の成長要素が多く、特に2012年度頃からはLTEなど次世代サービスの貢献も期待できる。また、「固定系ブロードバンド」サービスと異なり、「1人1契約」ではなく、「1人複数契約」も見込めるため、市場の潜在需要は非常に大きいだろう。

2014年度の「ワイヤレス系ブロードバンドサービス」の市場規模は約4,024万、うちデータ通信系(通信モジュール含)が約2,879万、公衆無線LANが約1,145万と予測する。

図表 1. 固定系ブロードバンドアクセス普及の推移と予測



(万契約)

	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度 (見込)	10年度 (予測)	11年度 (予測)	12年度 (予測)	13年度 (予測)	14年度 (予測)
FTTH	290	546	879	1,215	1,502	1,776	2,036	2,273	2,476	2,653	2,816
DSL	1,368	1,452	1,401	1,271	1,118	987	881	786	699	616	536
CATVアクセス	296	331	361	387	411	432	451	469	486	496	505
<b>固定系合計</b>	<b>1,953</b>	<b>2,329</b>	<b>2,641</b>	<b>2,874</b>	<b>3,031</b>	<b>3,194</b>	<b>3,368</b>	<b>3,527</b>	<b>3,662</b>	<b>3,766</b>	<b>3,856</b>

注 1: 2008年度までは総務省データより引用、2009年度以降は矢野経済研究所予測値

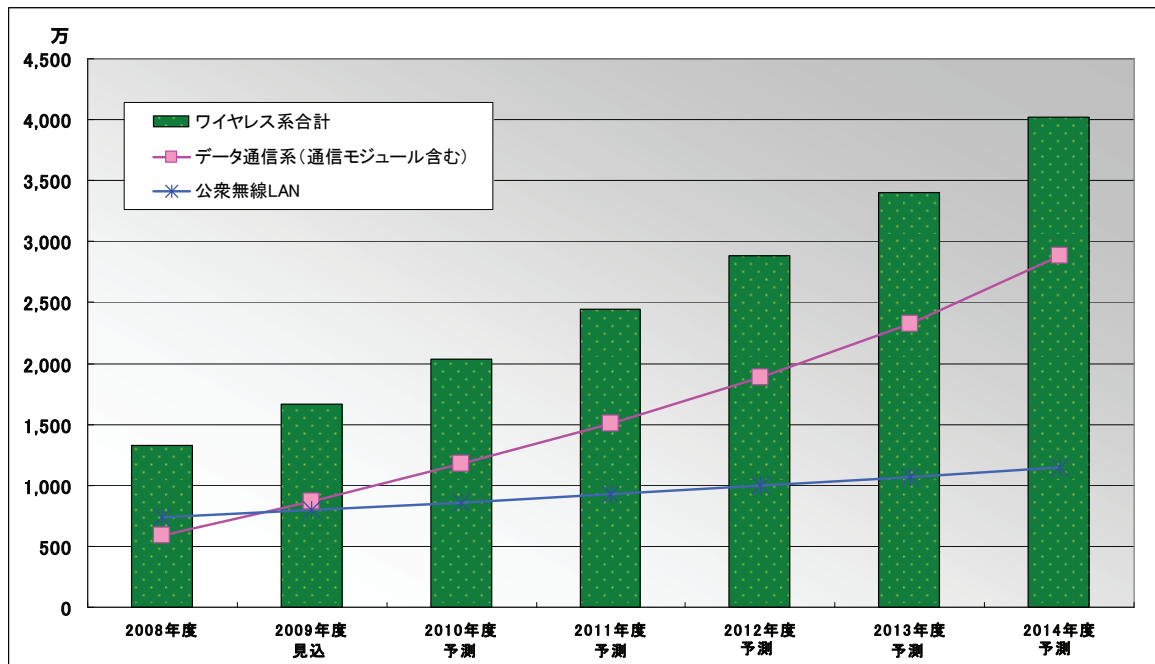
注 2: (見込)は見込値、(予測)は予測値

注 3: 四捨五入をしているため、一部合計値は一致しない

注 4: 契約数ベース

注 5: 個人市場・法人市場とも含む

図表 2. ワイヤレス系ブロードバンドアクセス普及予測



(万契約)

	08年度	09年度 (見込)	10年度 (予測)	11年度 (予測)	12年度 (予測)	13年度 (予測)	14年度 (予測)
データ通信系(通信モジュール含む)	584	867	1,174	1,510	1,883	2,328	2,879
公衆無線LAN	743	796	860	930	1,000	1,072	1,145
<b>ワイヤレス系合計</b>	<b>1,327</b>	<b>1,663</b>	<b>2,034</b>	<b>2,440</b>	<b>2,883</b>	<b>3,400</b>	<b>4,024</b>

注 6: 「データ通信系」は矢野経済研究所推計値

「公衆無線 LAN」は、2008 年度までは総務省データより引用、2009 年度以降は矢野経済研究所予測値

注 7: (見込)は見込値、(予測)は予測値

注 8: 四捨五入をしているため、一部合計値は一致しない

注 9: 契約数ベース

注 10: 個人市場・法人市場とも含む

注 11: データ通信系の規格は、3G・3.5G/WiMAX/LTE/XGP を対象とする。ただし携帯 IP 接続サービスは含まない。サービスとしては「データ通信端末(カード型・USB 型等)」「スマートフォン」、「通信モジュール内蔵型端末(デジタルフォトフレーム、メディアプレイヤ、ノート PC、M2M など)」等を対象とする。

注 12: 公衆無線 LAN は、アクセス網に FTTH 等の固定網を利用するサービスであり、厳密にはその他ワイヤレス系アクセスサービスと性格が異なる。しかし、サービスの利用シーンとして見た場合、その他ワイヤレス系アクセスサービスの補完・あるいは競合的位置づけと想定される側面が強いため、今回はそうした利用実態に合わせてワイヤレス系ブロードバンドのひとつと位置づけた。